

【なあツツコんでくれよ、税金だってボケたいんだ】

「税金は誰にもツツコまれずに、ひとり漫才をしているみたい。」そんなことを考えた瞬間、私は思わず笑ってしまった。そして同時に、なぜか心の中にしんと響くものがあった。

普段の生活の中で、税金という存在はどこか地味で目立たない。「払わなきゃいけないもの」「なんだかよくわからない仕組み」くらいの認識しかない人も多いだろう。でもよく考えてみれば、税金って、実はすごく“ボケてる”と思うのだ。何も言わない、文句も言わない。ただ静かに、誰かの役に立とうとして、いつも裏方に回っている。照明が当たることはない。でもいなければ、舞台は成立しない。

例えば、病院で診察を受けるとき。税金がなかったら、医療費はもっと高くなるだろう。消防車が火事の現場に駆けつけるとき、その活動費は税金でまかなわれている。通学路の信号、図書館の本、公園の遊具、すべて税金の“ボケ”によるものだ。何も語らず、ただ「どうぞ」と差し出してくれるその姿に、私は漫才の相方のような頼もしさすら感じる。

けれど、そんな“ボケ担当”には、ツツコミがない。誰も「ありがとう」と言ってくれない。誰も「ナイスボケ！」と拍手を送らない。税金が静かに社会を支えていることに、気づかないふりをしてしまうこともある。むしろ、「高すぎる」「無駄遣いだ」などと、どこか冷たい言葉を浴びせる場面も見かける。

でも、本当は私たちこそが、そのツツコミ役になるべきなのではないだろうか。「税金ってちゃんと仕事しているな」「税って意外とすごい」そんなひとことを添えることで、税金というボケがようやく意味を持つ。ツツコミがあるから、笑いは完成する。感謝があるから、支えは報われる。

もちろん税金には、改善が必要な面もある。使い道に納得できないこともある。でもそれこそ、私たちが声をあげてツツむチャンスなのだ。無関心でいるよりも、正しく関わることで、税金はもつといい“ボケ”をしてくれるようになる。みんなが参加して、みんなが反応する。それこそが、笑顔のある社会のかたちだと思う。

だから私はこれから、税金をただの“負担”として見るのではなく、ユーモアと敬意を持って見つめていきたい。この社会の見えない主役、「ボケ担当の税金さん」に、いつかちゃんとツツコミを入れられるように。

「税金は誰にもツツコまれずに、ひとり漫才をしているみたい」この私の考えを、笑って終わらせるのではなく、笑いながら深く考えるきっかけにしたい。